

令和 7 年度 第 46 回 大学院セミナー

令和 7 年 9 月 25 日

分 野 名 Area of Research (責任者名)(内線)	皮膚病態学 分野 責任者名(室田 浩之) 内線(7333)
演 題 Title	AI と重症薬疹に学ぶ皮膚科診療の新展開 (講演 1) 皮膚疾患画像ナショナルデータベース (NSDD) プロジェクトと皮膚科 関連AIの開発について (講演 2) 最近の重症薬疹のトピックス
講 師 等 Presenter	(講演 1) 愛媛大学医学部皮膚科 教授 藤澤 康弘 先生 (講演 2) 新潟大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野 教授 阿部 理一郎 先生
概要 Abstract	(講演 1) 日本皮膚科学会は 2019 年より AMED 事業として皮膚疾患画像ナショナルデータベース (NSDD) の構築と AI 開発を進めてきた。演者は立ち上げから参画し、2023 年より AI 委員会委員長としてプロジェクトを推進している。これまで皮膚腫瘍、重症薬疹、膠原病、病理組織に関する AI 開発に取り組み、特に皮膚腫瘍分類 AI では悪性腫瘍検出感度 95%、特異度 90%を達成した。東北大学グループは細胞分布のヒートマップを用いた二段階深層学習法を開発し特許を取得、2023 年度からは BRIDGE 事業に採択され、皮膚疾患に対応可能な診断 AI アプリ開発を進めている。さらに 2024 年度には東京農工大、京都大と共に SIP 事業に採択され、デジタルツイン時代の医療情報収集の最適化、研究環境整備、皮膚科領域 LMM の早期開発に取り組んでいる。本講演ではこれまでの成果と今後の展望を紹介する (講演 2) 重症薬疹であるスティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表示壊死症、薬剤性過敏性症候群は発症頻度は希ながら、時に致死的となることもあり、さらに重篤な後遺症を残す場合もあり早期の診断が重要である。さらに薬剤性過敏性症候群は寛解後に重篤な合併症が発症することがあり注意深いフォローも求められる。臨床的な病態理解のための基礎的な解明が進んでおり、一部臨床応用に近づくものもあり、一方臨床的に新たな診断法や治療法も提案されており、本講演で紹介する。重症薬疹に対する理解や臨床的活用の一助になれば幸いである。
開 催 日 時 Date and Time	令和 7 年 10 月 23 日(木) 18:00 ~ 19:00
開 催 方 法 Online/Face to face	対面: 病院 2F 第4講義室
備 考 Notes	

- ☐ 先端医療科学特論(基礎編)
☐ 先端新興感染症病態制御学特論
☒ 日本語(Japanese)
☒ 対面(Face to face)

- ☒ 先端医療科学特論(臨床編)
☐ 先端放射線医療科学特論
☐ 英語(English)
☐ オンライン(Online)